■研究推進委員会　2022 年度　活動報告書

提出日：2023 年 3 月 31 日

名　称	日本庭園の「こころ」と「わざ」に関する研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：粟野　隆（東京農業大学）
幹　事	氏名（所属）：張　平星（東京農業大学） 連絡先 e-mail アドレス：hc207185@nodai.ac.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 寺石隆一（日本造園組合連合会）　井上花子（日本造園組合連合会） 山田拓広（日本造園建設業協会）　藤吉信之（日本造園建設業協会） 高橋康夫（日本庭園協会）　小沼康子（日本庭園協会） 小島裕史（京都府造園協同組合）　井上勝裕（京都府造園協同組合） 加藤友規（京都芸術大学・植彌加藤造園） 吉村龍二（環境事業計画研究所）　井原　縁（奈良県立大学） 上田裕文（北海道大学）　大野暁彦（名古屋市立大学） 福井　亘（京都府立大学）　水内佑輔（東京大学演習林） 小池辰典（北海道大学）
今年度 活動報告 成果	**１．日本造園学会におけるミニフォーラムの開催** 2022 年度日本造園学会全国大会において、「日本庭園の“わざ”（伝承造園技術）をいかにして継承し、未来へつないでゆくか？」と題したミニフォーラムを開催した。寺石隆一氏（日本造園組合連合会）「日本造園組合連合会における後継者育成の取り組み」、高橋康夫氏（日本庭園協会）「(一社）日本庭園協会における「わざ」の伝承」、内山貞文氏（ポートランド日本庭園）「ポートランド日本庭園における後継者育成の取り組み」ということで、話題提供をいただき、粟野隆（東京農業大学）を座長として総合討論をおこなった。 総合討論で結論としたことは以下 3 点である。 1）日本国内の造園の専門団体が、日本庭園の“わざ”を有する技術者・技能者を万全の体制・仕組みで輩出していることは大きな意義がある。 2）ポートランド日本庭園のセミナーでは、日本庭園のわざを習得するために、北米のみならず南米、ヨーロッパ、アジアおよそ 20 か国 400 人の造園技術者がセミナーに参加し、2022 年 6 月にはフランスで欧州日本庭園協会が設立された。日本庭園の価値が日本国内だけでなく、国際的に浸透している点に注目しなければならない。 3）以上 1）2）をふまえ、日本庭園の「こころとわざ」に関する価値の普及・啓発を世界的視野に立って進めてゆくことが価値を確実なものとする点で必要である。 **２．『作庭記』を対象とした日本庭園の「こころ」に関する検討** 本研究推進委員会のこころ部会のメンバーで、2022 年度は部会を 5 回開催し、『作庭記』では、自然、名所をどのようにとらえて作庭に展開しようとしていたのか、石組や植栽の技術的なところはどのように述べられているのか、外国の作庭書とはどのように異なるのか、などの点について検討をおこなった。 具体的には、『造園指針』（ピュックラー・ムスカウ）に見る作庭文化の独英比較、奥書にみる『作庭記』の展開-江戸時代における受容-、京都にみる平安時代の庭園の滝石組について、平安中期から後期における社会，信仰，思想，文化から作庭記を読み解く、『山水並野形図』における植物・植栽の内容について、『作庭記』にみる日本庭園の思想－その解釈ならびに評価を通して、風景論・政治社会文化的背景からみる作庭記、日本庭園の

	こころに影響を与えた中国の文献、に迫る観点である。 **３．日本庭園の「わざ」（伝承造園技術）に関する「わざ」シーとの作成** 本研究推進委員会のわざ部会のメンバーで 2022 年度は部会を 4 回開催し、2021 年度に作成した日本庭園のわざ（伝承造園技術）に関するツリー図とその一覧表を精査しつつ、個々の技術のカタロギングを意図して「わざ」シートの作成に着手した。 個々の項目については、「技術の目的・考え方・概要」、「施工・実施方法」、「技術の実施にあたり、使用される専門用語・職人言葉」「造園技術における特有性・固有性、造園技術としての評価」について整理することとした。 個々の技術は 190 件ほどあり、今年度は 50 件程度の個々の技術についてシートを作成している。ただし、個々のシートには記述の内容についてバラツキもあることから、シートを全体として作成後、大きな調整が必要となっている状況である。